

## 明德義塾中女子

### 全国中学選抜大会女子団体準優勝

毎年3月に行われる卓球の全国中学選抜大会は、高校の全国選抜大会と重なることが多い。両方に出場する中高一貫校で監督が兼務の場合、どちらか一方は指揮官不在で戦うことになる。

佐藤建剛、利香夫妻が中高男女の監督を務める明德義塾もその一つ。昨年3月下旬、女子の利香監督は高校の試合がある愛知県にいた。宮城県での中学選抜は80歳の穂積宗一郎元監督がベンチ入りしたが選手たちは穂積先生に頼らず、自分たちで考えて戦うという方針を貫いた。

◇ 中学選抜で明德女子は、決勝トーナメント1回戦の三郷(奈良)にこそ3-0で勝ったものの、準々決勝の山陽学園(岡山)と準決勝の山陽学園(岡山)にはいずれも3-2と、苦しみ抜いた末の勝利だった。

激戦が続いた大会。愛知にいる利香監督と試合前に連絡を取りアドバイスを受けたものの、基本的には主将の立川柚菜を中心に選手たちが作戦を練っていたという。

準決勝はその立川が、第1単で相手エースに2-3で惜敗。第2単の吉田璃乃も第1ゲームを落としてしまった。しかし吉田は慌てない。ラリーで振り回されてしまった」と分析し、ど

# 自分たちで考え戦う



ういうサーブを出せば次にチャンスが巡ってくるかを考えた。第2ゲームをジュニアスの末に奪い返すと、第3、4ゲームを連取して、チームのスコアを1-1の五分に戻した。

◇ 勢いに乗って3-0。第3単の駒瀬あゆみが敗れて2-2で回ってきたのが、2021、22年の全国高校総体で2年連続準優勝のチームで主将を務めた青井さくらの妹、青井里穂だった。他の試合は全て終わっており、広い体育館で球を打ち合う

音が響くのは青井が戦う台だ。また新型コロナウイルス対策で、声を出しての応援が禁止されていたが、チームメイトが大きな拍手とジェスチャーで盛り上げてくれた。第2ゲームを終えて1-1。「少し焦ったけど、それは相手も同じ」と聞き直って第3、4ゲームを取った。ついに決勝進出だ。

◇ この準決勝、第1単の立川と第3単の駒瀬は敗れてしまった。ただ駒瀬は「上沢菜央さん(青井さくらと同級生で21、22年)が知恵を絞ってそれを結果させる。そして一つの目標に向かう。」(井上太郎)

心は一つ。目標は一つ。でも、達成までのプランは選手たちがそれぞれ自分で考える (明德義塾中高一森本敦士撮影)